CEN, CENEREC と ESTI が連携し標準化を進め、ユースケースを設定し、プロジェクト参加国が定期的な情報交換を行う体制と 2020 年に向けた用語や知識の共有のロードマップ設定プロジェクトが発足した。そしてこれらを進める上で重要な要素となる用語の中心となる SNOMED-CT を、米国、英国に次いで 3 番目に導入、看護関係を拡大し適用を行った。今後の重要性を理解し、米国から受け取り IHTSDO として 2007 年に組織化し、加盟を 12 カ国に拡大し、加盟国と連携し翻訳やマッピングツールを開発し、WHO の ICD11 との連携をし、今後の展開に重要な役割を果たしている。EU には急速に広がるとみられている。2005 年に視察団として訪問した時には、2006 年から介護関係の拡大し 2009 年までに完了すると説明していた。大学病院などもモデル化し連携するプロジェクトを進めていたが、こちらの方は臨床部門の現場が臨床情報の固有性から共有を望まず、必要に応じて交換する方向に転換し、2008 年から 2012 年にかけ、英国の EHR をリードしたデロイトツッシュのコンサルテングを受け、メッセージ基盤強化に HL7 を導入、デジタルヘルスの開発を推進している。

5) ニュージーランドの状況

・個別最適と全体最適の調整

2008 年末の政権交代で 2001 年から始まった、ニュージーランドを約 20 万人ずつの 20 地域に分割し、各地域に CEO、CIO や CMO を任命し、各地域でのビジネスプロセスの最適化を競わせた結果、医療サービスは向上し、2005 年から 2006 年にかけて、デンマークとともに最も高い評価を受けていた。しかし、2006 年から始まった、国レベルの EHR 開発が進展し各地域との連携を取る段階になって、各地域がそれぞれアプリケーションを開発しているためその調整に苦労しており、しかもその周辺にある GP のパッケージも多くのカスタマイズを行っており事態を一層深刻にした。これらの対策のため 2008 年の暮れに事実調査と対応策を検討する委員会を発足させており、個別最適と全体最適の調整の進め方に関しての今後の動きが注目される。

参照情報

http://www.hhs.gov/healthit/healthnetwork
http://www.ehealthinitiative.org/
http://www.chcf.org/documents/chronicdise
http://www.infoway-inforoute.ca/
http://www.ehealthSmartBrief.com/
http://www.healthdatamanagement.com/
http://cfmediaview.com//

D．結論と考察

一昨年と昨年に続き各国の EHR の実施状況の概略をまとめた。早くから取り組んでいる国々は、その成果、課題が一層明確になり、EHR のデータの活用に移り成果が顕著になりつつあり、EU を中心にそれらの成果の調査報告が目立つようになってきている。また、中国やブラジルなどの新興国の EHR 開発計画や、さらにブラジルが WHO と組んで、自国をはじめ先行国での標準化や EHR 開発成果のサブセット化やノーハウ提供を進めるグローバルサウスプロジェクトが進められるなど、世界 100 カ国が EHR の開発に参加することになる。また、医薬や医療機器など、従来規制中心であった対象が、電子化によるより安全に質の高い製品開発やサービスを実施するために、国際標準化の動きを急速に進めており、これらも EHR と連携しようとしている。また従来歯科は個別の動きをしていたが、EHR のなかに統合していく動きも出始め、また一方漢方の標準化が ISO/TC249 として、中国がリードして進められている。ISO/TC215 は設立から 12 年目であるが、CEN/TC251 との合同会議が常態化し、毎回 250 名近い参加があり、ISO の技術委員会 TC の中でも最大規模となっている。また標準制定数も 70 以上となり、制定中を含めると 100 以上となり、EHR 開発に必要といわれる 100 前後を既に作成しつつある。また、TC215 の委員長が用語関連の国際的なエキスパートに変わり、審議案件も用語などの意味的相互運用性の拡大と臨床分野を支援するコンテンツ関連、製薬や医療機器などに中心が移ってきている。

日本も政権交代で医療・介護・福祉を重視する傾向に変わり、政策や資金面でも新たな動きがおき始めており、こうした動きに対し、世界の状況の継続的な把握と連携を進め、日本にあった対応を本格的に始める環境が整ってきている。

G．研究発表

1．論文発表

2．学会発表

長谷川英重、第 29 回医療情報学連合大会(第 10 回日本医療情報学会学術大会)、三菱電機ホスピタルルーム、EHR の最新動向

田中博、尾崎忠雄、長谷川英重、月刊新医療、2009 1月号から12月号に連載「EHRをめぐる世界の動き」
長谷川英重、機関誌「病院」、2009年6月号特集医療IT「の行方「医療IT化　世界の潮流と日本の現状」
長谷川英重、季刊誌 ITvision、「米国ヘルスケアIT最前線」3回連載
長谷川英重、日経コンピュータ、2009.9/2「ヘルスケア分野の取り組み」

H．知的財産権の出願・登録状況
１．特許取得
該当なし
２．実用新案登録
該当なし

別紙４

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書　籍　名	出版社名	出版地	出版年	ページ
辰巳治之，明石浩史，新見隆彦，中村正弘，高橋正昇，太田秀造，二宮孝文，市川量一，菊池真，高塚伸太朗，戸倉一，穴水弘光	札幌地区：次世代ホームヘルスケアーシステム：戦略的防衛医療構想の実現に向けて	三林浩二	ヘルスケアとバイオ医療のための先端デバイス機器	シーエムシー出版	東京	2009	349-362

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
田中博	米国の医療ITの同行とオバマのCHANGE	HOPE Vision	Vol.10	2-3	2009
田中博	疾患別地域クリニカルパスを基盤とした日本版EHRの構築を	医療タイムズ	No.1915	4-5	2009
田中博	電子カルテ導入による中小規模病院のIT化がもたらす政府施策の影響	新医療	2009年7月号	32-35	2009
田中博	日本版EHRの実現を求めて	IT VISION	No.19	18-19	2009
田中博	長期的医療IT政策の枠組みから見た「遠隔医療」	新医療	2009年2月号	86-93	2009
田中博	日本版EHRを中心とした医療IT化への展開への議論を集大成するイベントに	JMS Note	第28回医療情報学会連合大会	29-30	2008
Okamoto E., Fujii H., Tanaka H., Yamakata D., Nobutomo K., Nagata H	Development of an IT infrastructure under Japan`s Health Care Reform 2008: a potential for regional health information	Jpn J Med Inf	28(2)	93-98	2009

Ohashi W., Tanaka H	Benefits of pharmacogenomics in drug development - earlier launch of drugs and less adverse events	Journal of Medical Systems	-	-	2009
笹井浩介，川上洋一，三原直樹，黒田知宏，仲野俊成，松村泰志，宮本正喜	症例オントロジーを応用した画像診断支援システムの開発	医療情報学	29 (supple)		2009
松田淳子，進藤亜紀子，丸川輝剛，谷　昇子，吉田靖，宮本正喜，堀尾裕幸，稲田　紘	FIDタグと標準化された電子化マニュアルを用いた医療機器管理安全管理システムの構築	日本医工学治療学会機関誌	21（supple），No.1		2009
絹川武俊，秋山治，内藤　泰、甲斐義啓、由良仁、宮本正喜	当院実績による診断群分類別収入推移シュミレーションの作成および検証	日本診療録管理学会誌	21-2	85	2009
本田耕一郎，辰巳久美子、絹川武俊，後藤　浩、寺田英司、由良仁、宮本正喜	バリアンス情報の有効活用に向けての取組み	日本診療録管理学会誌	21-2	162	2009
明石浩史，大石憲且，小林悟史，高塚伸太朗，朝利敏光，中村正弘，森崎龍郎，木村眞司，新見隆彦，戸倉一，石田朗，辰巳治之，佐藤昇志	Virtual Global Network(VGN)技術による遠隔医療・生涯教育ネットワーク環境の改良	Proceedings of NORTH Internet Symposium 2009	Vol.15	8-14	2009
新見隆彦，明石浩史，辰巳治之	道南地域遠隔医療圏形成・構築への具体的方途	Proceedings of NORTH Internet Symposium 2009	Vol.15	15-40	2009
高塚伸太朗，小境穂高，村林俊，平田拓，明石浩史，辰巳治之，佐藤昇志	呼吸周波数の瞳孔径への影響と周期的光刺激の心拍変動への影響	Proceedings of NORTH Internet Symposium 2009	Vol.15	41-51	2009
石田朗，明石浩史，戸倉一，新見隆彦，辰巳治之	「平成20年度防災情報ネットワーク研究会(仮称)」のための通信回線接続実験ならびに遠隔講演の試行話	Proceedings of NORTH Internet Symposium 2009	Vol.15	52-54	2009

多田孝男，辰巳治之	いきいきシニアネットこれまでの経緯、現状、課題	Proceedings of NORTH Internet Symposium 2009	Vol.15	153-163	2009
辰巳治之，新見隆彦，井上芳郎，中村正弘，高橋正昇，太田秀造，朝利敏光，高塚伸太朗，戸倉一，明石浩史，石田朗，大石憲且，穴水弘光，宮本正善，木内貴弘，田中博	ICT利活用の形而上学的諸問題の解明：遠隔・地域医療への応用	Proceedings of NORTH Internet Symposium 2009	Vol.15	214-226	2009
辰巳治之，新見隆彦，中村正弘，高橋正昇，太田秀造，明石浩史，高塚伸太朗，戸倉一	電子カルテシステムの形而上学的諸問題を解剖する：ICTによる戦略的防衛医療構想の提案	月刊新医療	4月号	106-114	2009
辰巳治之，藤宮峯子，鈴木大輔，青木光広，内山英一，中村宅雄，松村博文，佐藤利夫，二宮孝文，市川量一，菊池真，新見隆彦	安全な先端医療のための解剖教育と医療技術研修	解剖学雑誌	Vol.84 No2	51	2009
辰巳治之，新見隆彦，明石浩史，高塚伸太朗，中村正弘，二宮孝文，市川量一，菊池真	日本版EHRの実現のための地域ICTと『情報薬』：新しい医療の展開を目指して	Proceedings of JAMINA Medical Informatics Seminar	Vol.6	59-92	2009
明石浩史，高塚伸太朗，森崎龍郎，小林悟史，大石憲且，相馬仁，新見隆彦，朝利敏光，中村正弘，戸倉一，辰巳治之，佐藤昇志，今井浩三	地域医療従事者遠隔教育における問題抽出とその改善（インフラからコンテンツまで）	医療情報学	29(Suppl.)	908-909	2009
辰巳治之，藤宮峯子，内山英一	医療技術(研修)研究開発センター設立に向けて	日本内視鏡外科学会雑誌	Vol.14 No.7	183	2009

明石浩史，小林悟史，大石憲且，高塚伸太朗，新見隆彦，朝利敏光，森崎龍郎，木村眞司，戸倉一，中村正弘，石田朗，美馬義亮，辰巳治之，佐藤昇志	遠隔教育におけるVirtual Global Network(VGN)導入効果の客観的および主観的評価	Proceedings of NORTH Internet Symposium 2010	Vol.16	9-11	2010
新見隆彦，遠藤力，明石浩史，岡田晋吾，下山則彦，木村眞司，井上芳郎，宮部昌生，木田毅，原量宏，辰巳治之	「北海道南西部・広域医療連携ネットワークの構築」周産期医療支援システムの実際	Proceedings of NORTH Internet Symposium 2010	Vol.16	13-34	2010
辰巳治之，新見隆彦，高橋正昇，太田秀造，戸倉一，明石浩史，穴水弘光，大石憲且，高木秀二，木内貴弘，田中博，中尾彰宏	ICTによる情報薬の開発戦略的防衛医療構想の基盤になるもの	Proceedings of NORTH Internet Symposium 2010	Vol.16	211-221	2010
原量宏	周産期電子カルテを活用した地域連携 ー電子カルテネットワークを用いた産科医療の崩壊を止めるー	ITMedical	Vol.2(3)	64-68	2009
原量宏	周産期電子カルテを活用した周産期医療の再構築ー電子カルテネットワークを用いて産科医療の崩壊を防ぐー	周産期医学	40(1)	49-56	2010
平井愛山	医師不足・偏在改善への具体策「地域で医師を育てる」環境整備	医療白書			2009
水野正明，吉田純	一方向型地域医療連携におけるICTの利活用	ITvision 2009	19	38-39	2009
水野正明，吉田純	ICTを用いた脳卒中連携医療支援システムの構築	日本医師会雑誌	138	1369-1373	2009
秋山昌範	電子カルテと医療画像データベースの未来	消化器内視鏡	Vol.21 No.7	1-10	2009

秋山昌範	クラウドコンピューティング時代に必要なデジタル・フォレンジック	日本セキュリティ・マネジメント学会誌	Vol.23 No.1	61-67	2009
秋山昌範	医療安全における医薬品等のトレーサビリティの役割	医療の質安全学会誌	第4巻第1号	41-47	2009
小塩篤史・秋山昌範	血液製剤の履歴管理と医療IT －AIDC(Auto Identification and Data Capturing)と患者安全・プロセスの可視化	医療情報学	29(Suppl.)	799-803	2009
秋山昌範・小笠原克彦・奥田保男・岡崎宣夫	医療情報が支える医療マネジメント-放射線部門を例とした情報連携と最適化-	医療情報学	29(Suppl.)	321-323	2009
Koshio A., Akiyama M	Blood Trasfusion and Patient Safety with IT - Minimizing risk of transfusion with Point-of-Act-System	Proceedings of Asia Pacific Medical Informatics Association	2009	46-53	2009

200937011A

本研究報告書には下記のCD 1枚が添付されています。

平成 21 年度　総括・分担研究報告書
日本版EHR（生涯健康医療電子記録）の実現に向けた研究
平成 22（2010）年 5 月
研究代表者　　田中　博